

白山ふるさと文学賞

第五回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生中学年の部 優秀賞

# 母にかんしや

松陽小学校三年

宮川 みやかわ

菜々 なな

やさしい作りのべん強をして、そつぎようした母さんは、今年は、本かくてきに、やさしい作りをしています。でも、わたしの家は、農家なので、田んぼの仕事もたくさんあります。

3月の終わりごろからなえのたねまきをし、そして育びようきでめがでたなえばこを、ハウスにならべる仕事から始まります。朝4時に、まだ暗い時から、父さんがトラックにつんだなえばこを、ハウスの中でじいじと手つだいに来てくれるおじさんと母さん3人で毎回一千まいのなえをハウスにならべます。それが9回ほどあります。そしてそのなえを、ハウスで育てます。二年は、いつもなえのかんりをしていたばあばがけがをして、入いんしてしまい、水かんりもしたことのない母さんに、仕事が出来ました。大きな風がふいて、ハウスがこわれた人たちがいっぱいいた中で、わたしの家はナイロンがやぶれました。母さんは、ハウスの前で、うろうろしながらとてもしんぱいしこわかったそうです。入いん中のばあばも気が気では、なかったそうです。そして田うえをむかえ、たいいんしたばあばも、りつばななえを見て、

「あいちやん大へんやったね。わたしがつくったなえよりりつばななえやよ。」

と言って母さんをほめていました。父さんもじいじも、

「よいなえで田うえもスムーズに終わった。」

と言っていました。初めてのけいけんの母さんよかつたね。こんどは、ハウスでメロンのなえうえです。二年は、千五百本のなえをうえました。父さんも仕事から帰ってくると、母さんやじいじたちといっしょになえうえをしています。メロンをかんりしすこし大きくなつた所で、こんどは、あいているハウスで一本は、家族で食べる夏やさしい作り。あとは、小松菜のたねまきです。ひりようをやり、トラクターで、おこしたり母さんとじいじは、いっしょけんめいあせだくになりがなばっています。じいじは、母さんにいろいろ教えてくれています。こわい先生です。でも、本当はとてもやさしいんです。わたしたちのめんどうもよく見てくれます。

す。父さんも仕事に行きながら、そして、帰ってから日がくれるまで田んぼの仕事をし、手のあいている時は、とてもつかれていても、かならず母さんを手つだつてくれています。わたしと弟のならいごとでもどれだけつかれていてもおくりむかえをしてくれます。つごうのわるいときは、小松のばあちゃんにたのんでいます。母さんには、まわりのみんながきょう力してくれます。わたしも母さんに、少しずつですが手つだいができるよう母さんがらくになるようにやりたいと思っています。

がんばりやの母さんは、また自分の母親や父さんの母親、つまり、わたしたちのおばあちゃんたちがいるからがんばれると言っています。じいじやとうさんがいなければぜつたいむりだつてわたしたちも母さんにかんしゃしてるし、母さんも自分たちの母さんにかんしゃしてるし、みんなのきょう力があつて母さんもがんばつていけるんだなつて思います。わたしの家族は、さいこうです。これからも母さんがスムーズに仕事ができるようわたしも自分のできることは、自分でし、母さんが、少しでもらくができるよう心がけて行きたいと思っています。

母さん、むりをしないでね。みんながついているからね。